

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で



学校だより

夏休み号

横浜市立谷本小学校
令和元年7月19日

HP アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/>

「国際平和のために、自分がやりたいこと」

校長 和内

昭子

6月に青葉区のおおぼくよこはま子ども国際平和スピーチコンテストが青葉公会堂で行われました。本校代表として6年山田あやめさんが今年のことし「国際平和のために、自分がやりたいこと」のスピーチを行いました。小学生のしょうがくせいりっぱしゅちょうしょうかいの立派な主張を紹介いたします。

「誰もが幸せになるための一歩」

6年 山田 絢芽

賞味期限を1日だけ過ぎたお菓子があつたとしたら、あなたは、それを食べますか。賞味期限と消費期限、よく似ているこの言葉の違いを少し前まで私は気に留めたことがありませんでした。「期限が過ぎてしまった物は捨てるしかないな。」と思っていたのです。5年生の時に日本の食糧事情や世界の情勢を学びました。その中で私が一番ショックを受けたのは、世界には飢えに苦しんでいる人がたくさんいるのに日本では大量の食品が捨てられているという事実でした。本来は食べられるのに捨てられてしまう食品は「食品ロス」と呼ばれています。日本の「食品ロス」は国の調査によると1年間に約640万トンもあるそうです。この量は、世界中で飢えに苦しむ人々に向けた食料援助量の約2倍にあたり、これを捨てるための費用が1年間で2兆円もかかっているそうです。私は世界の人々が等しく幸せになるためには、現在のような「食品ロス」を無くしていくべきだと考えています。

それでは、一体どうすれば「食品ロス」は無くなるのでしょうか。その一つが食品の鮮度へのこだわり過ぎを捨てることだと知りました。刺身などの生食の歴史を持つ日本人は他の国の人に比べ、食品の鮮度に厳しいルールを作ってきたと言われていています。そのために賞味期限の何ヶ月も前に「もう売ることができない。」と製造業者に返されてしまう商品があるのだそうです。また、せっかく買ったものも家庭で保管している内に「もう、期限を過ぎた。」という理由で捨てられてしまうことがあります。そもそも、消費期限は「食べても安全な期限」賞味期限は「十分おいしく食べられる期限」を表しているのです。賞味期限を越えてもすぐに食べられなくなるわけではありません。

谷本小学校の子どもたちにも朝会で山田さんにスピーチをしてもらいました。皆、真剣に聞いていました。低学年には難しいかもしれませんが、是非、家族でも話し合っていただけだと思います。そして、子どもたちの主張を私たち大人もしっかりと受け止め、世界の幸せのために、日本の未来のためにも行動を起こしていくことができたなら願っています。我が家でも冷蔵庫の野菜を使い切ることを目指していきます。